

◆研究概要等

今まで、アクション・リサーチという手法を用いて、まちづくり研究を実践してきました。その研究の根幹となる理念は、当事者意識を持つことです。何事もその場に居合わせて、時間をともに共有しなければ物事の真意はわかりません。

まちづくりとは、地域の資源を生かしながら、市民、企業、行政、専門家が協働で都市や都市近郊の環境を整備改善していく活動のことを意味しています。そうしたまちづくりの現場に入り、常に地域住民や市民とかかわりを持ちつつ研究を進めてきました。

この5年間のインターネットやSNS等の普及により、まちづくり活動の目的や進め方もめまぐるしく変化を遂げてきました。Google会長のエリック・シュミット氏は、2025年には、「世界80億人がデジタルで繋がる世界」が形成され、その先にあるのは、分断と新たなコミュニティの形成であると指摘しています。今、この瞬間にも、各地域で実践されているまちづくり活動がイノベーションを起こしています。

■研究テーマ等

1. まちづくりのプロセス研究

まちづくりのきっかけ、まちづくりが次のステップへと展開していくための駆動力なる出来事、参加者とその「場」、参加者同士の協働のスタイル、まちづくりを支える制度等の研究をしています。まちづくりの目標値を決めて、どこまで達成できたのかを評価することも大切ですが、それ以上に、まちづくりのプロセスを評価の指標とすることも必要ではないかと考えています

2. 地域資源を生かしたまちづくり

地域には、時間とともに生まれた資源が数多く残っています。それらを生かしたまちづくりができれば地域の課題を解決できるだけでなく、地域への愛

環境・まちづくり系専攻
まちづくり研究室
准教授

たなかあきよ

田中晃代

t-akiyo@socio.kindai.ac.jp



<http://researchmap.jp/t-akiyo3/>



兵庫県川西市黒川調査(2016年7月)

着や誇り、共感(=シビックプライド)を生み出すきっかけになることもあります。こうした地域の良いところを積極的にPRしていくことも大切です。

そこで、まずは、地域の資源となりうるものを発見し、共有し、資源を生かしながら地域のストーリーを育んでいくその過程を経て、地域の魅力づくりを実現します。そのためには、①地域の特性を読み取ること、②地域住民のニーズを把握すること、が必要になります。それらを紡ぎ合わせて、地域のストーリーを構築していきます。

3. まちづくりにおける効果的な「場」のデザインのあり方

まちづくり活動では、医療福祉・景観・環境・芸術文化・経済・法制度・人権・交通・歴史・教育・建築不動産など様々な分野が実践されています。それぞれの分野ごとの情報共有ではなく、地域のくらしという視点で総合的に情報を共有する仕組み・仕掛けの1つとして、井戸端会議、ラウンドテーブル、シャベリバなどの「場」が実践されています。地域の環境改善のために効果的な「場」のデザインを研究しています。

4. まちづくり関連法制度の運用研究

地域住民や市民が主体的にまちづくり活動を実現するための行政の支援策や制度に関して研究をしてきました。例えば、国の一律の法制度でなく、地域固有の条例の制定状況やその運用などです。法制度の制定のみならず、それらを創意工夫しながら運用することで、地域のまちづくりは達成できるものと考えています。

●論文・作品・表彰・特許等

- (1)「ネットワーク型まちづくり事業を生み出すための「予算提案制度」の運用に関する研究-大阪府池田市の地域分権制度を事例とする-」田中晃代、日本都市計画学会学術研究論文集48(3)、2013年10月
- (2)「市議会議員の「参加型まちづくり」における活動実態と思考パターンからみた役割研究」田中晃代、土木学会論文集D3,68-5、I_259・I_265、2012年12月
- (3)「「まちづくり条例」から「自治基本条例」への展開と行政支援の継続性に関する研究—豊中市のまちづくりを事例とする—」田中晃代、近畿大学総合社会学部紀要Applied Sociology Research Review Kinki University1(2)11-18、2012年3月
- (4)「地域協働型まちづくりにおける市民が担うフォーラム運営の課題と展望—大阪府吹田市「東部拠点のまちづくり市民フォーラム」を事例に」田中晃代、日本都市計画学会学術研究論文集44-2/44-3 NO.44-3,96、2009年10月
- (5)「地域協働型まちづくりにおける市民提案のための「場」のデザインの変遷と行政支援のあり方」田中晃代、日本都市計画学会学術研究論文集43(3)、2008年10月

ほか論文多数。

1999年9月：博士(工学)(大阪大学)

2000年度：日本都市計画学会論文奨励賞受賞

▲趣味等

日本や海外にこだわらず、様々な地域をまちあるきしています。地域固有の文化や暮らしに触れながら、くらしの体験をすることが好きです。また、気分転換に沖縄の唄三線を練習することもあります。

◆ゼミの宣伝等

まちあるきやフィールドワーク、ボランティア等現場のまちづくりに参加する機会を多くつくっております。実際の現場に身を置きながら、主体的に卒業論文の作成に取り組んでいただきます。また、年に1度ゼミの学生が主体的に企画したゼミ旅行を実施いたします。現在までに、長崎や佐世保、別府、湯布院や広島、徳島などの観光地を訪れました。